教授の呟き

第11回

全体と個の対立は永遠のテーマ

東京海洋大学教授　苦瀬博仁

独特の「成り代わり」文化

さまざまな人生模様を唄い分ける美空ひばり。今年の夏は懐メロ番組で美空ひばりの歌を聞きながら、そこに描かれている当時の生活や、昭和という時代の中の自分に想（おも）いを巡らした。

その後しばらくして、「わが国には成り代わりの文化がある」という文章に出会った。

「この国の芸能全般には『成り代わって演じる』という約束事があります。子供が大人を、男が女を、女が男を。歌舞伎の女形やタカラヅカを考えればよい。同じ歌謡曲なら、女に成り代わって、女心を切々と語る森進一」

「美空ひばりは、昭和の老若男女を、股旅、マドロス、娘、果ては柔道家（！）、最後は昭和を生き抜いた一人の『女』という自分を演じることで、描き出しました」と記してあった[1]。

仮想の世界やいくつかの役を演じ分ける「成り代わり」の文化が、「他者への共感」を醸成し、わが国の「持ちつ持たれつの世間」を創ってきたのかもしれないと感じた。

「持ちつ持たれつ」が消える？

近年は国際的な大競争時代ということで、「持ちつ持たれつ」の相互扶助よりも、「競争」のほうが身近になっている。しかし「競争」という言葉は福澤諭吉によるcompetitionの訳語とのことだから、それほど古い言葉ではなさそうだ。

勝者と敗者に区分する競争原理の普及は、一方が利益を得ればもう一方が損害を被る可能性を高くしている。「グローバル化の時代に、悠長なことを言ってはいられない」「勝ち組か負け組かの、生き残りをかけたギリギリの勝負」[2]ということなのだろうか。

この競争社会における企業の生き残り戦略の一環として、ロジスティクスが注目され、「ロジスティクスの全体最適化」の必要性が強調されている。

全体最適化と競争原理の葛藤

全体最適化とは、ロジスティクスに関わる部門が個別に最適化しても全体最適につながるとは限らないため、企業内や取引間を含めた複数の部門間で最適化しようとするものである。これは経済学で言うところの、「合成の誤謬（ごびゅう）」を避けることでもある。

ロジスティクスの全体最適化には、取引先との最適化（図1の①）や協力会社も含めた系列内最適化（②）もあれば、自社の調達・生産・流通・販売部門を通じた企業内最適化（③）もある。

特に前者（①と②）では、取引先や親会社によって示された目標に到達するための努力が、結果として自社の物流効率化を促進し、事業の成

功をもたらす例も多い。

一方、取引間であれ企業内であれ、そこに個別利益を優先する競争原理が働けば、全体最適化も容易には実現しないかもしれない。系列のトップに立ち市場をリードする企業が、自らの事情だけに気を取られ、取引先や物流専業者に対して無理難題を押しつけていることもありそうだ。

「月末の押し込み販売は、やめてほしい」、「荷主の都合で、勝手に契約外の仕事を要求しないでほしい」などは、しばしば聞こえてくる切実な嘆きでもある。

勝ち組の押しつけはそぐわない

「全体最適化」と「競争原理」は、本来並立するものなのだろうか。

ロジスティクスの全体最適化こそが、企業間競争に勝ち抜く方法と考えればよいのだろうか。それとも、競争原理の働くところでは、全体最適化は難しいと考えるべきなのだろうか。ひょっとしたらわれわれは、2つの言葉を都合良く使い分けているだけなのだろうか。

少なくとも「取引先も含めたロジスティクスの全体最適」を意図するのであれば、他者（他社）への「成り代わり」と「そこへの共感」を活かして、一時的もしくは部分的な不利益には目をつぶってでも、長期的なメリットを追求する覚悟が必要だろう。

なぜなら「全体最適化」が「勝ち組による論理の押しつけ」になっては、わが国の文化とはそぐわないような気もするし、それが本意とは思えないからである。

図1　3つのロジスティクス最適化（取引間、系列内、企業内）

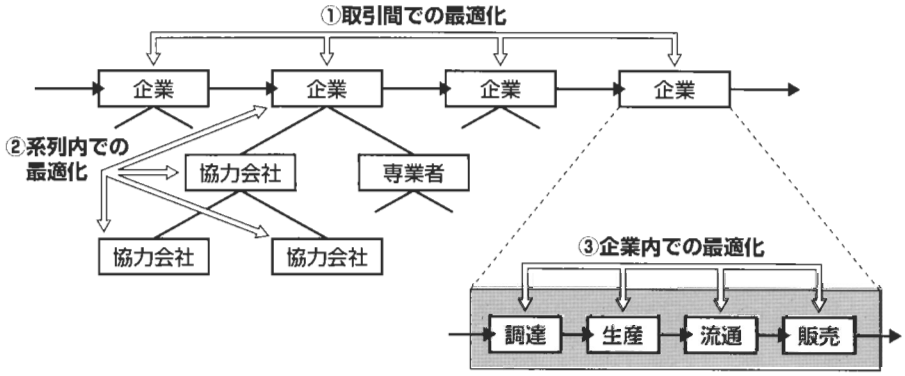
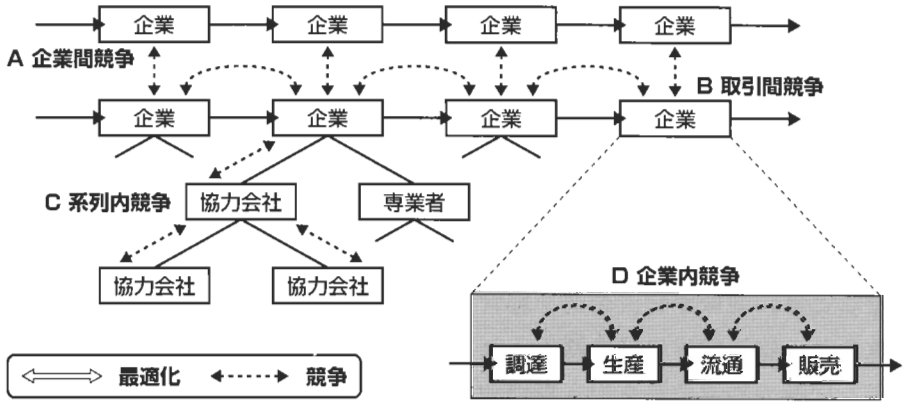


図2　ロジスティクスをめぐる4つの競争（企業間、取引間、系列内、企業内）



（1）船曳建夫のニッポニアなニッポン、「戦後の昭和の記憶装置ー『語り』（下）美空ひばりの場合ー」、毎日新聞、2003年9月8日夕刊

（2）J．スティグリッツ、「世界を不幸にしたグローバリズムの正体」、徳間書店、2002年

Profile

東京海洋大学　海洋工学部
流通情報工学科　教授
苦瀬博仁

（くせ　ひろひと）1951年東京生まれ。73年早稲田大学理工学部土木工学科卒業。75年、同大学大学院修士課程修了。81年、同大学大学院博士課程修了後、日本国土開発に入社。86年から東京商船大学助教授、94年より同大学教授。2003年大学統合により、東京海洋大学教授。94年から95年の1年間、フィリピン大学客員教授を務める。主な著書に「付加価値創造のロジスティクス」（税務経理協会）、「都市交通ー都市交通計画・都市物流計画」（丸善）、「マニラ・エンジョイ・トラブル」（論創社）、「明日の都市交通政策」（成文堂）